

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270300599		
法人名	有限会社 源氏陸運		
事業所名	グループホーム 源氏庵		
所在地	静岡県伊豆の国市四日町346-2		
自己評価作成日	平成22年10月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyo-shi-zuoka.jp/kai-gosi/p/inf/onat/lonPubl/c.do?JCD=2270300599&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成22年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員が「自然に自分らしく共に生きよう」を目指し、できるだけ特別でない第2の家・家族的サービスを心掛けている。入居者も近隣の方々が多く、地域での理解と協力は日々の生活に生かされている。家族も毎日のように寄られ、職員とのコミュニケーションも豊富にあり、支援に結びつけるよう努めている。又、ホームでのターミナルを望まれる方々が増え、職員も学ぶ姿勢が熱心である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊豆の国市でも韮山地区は源頼朝に縁が深い蛭ヶ小島。江川代官屋敷や反射炉等歴史にまつわる旧跡が所在する静かな町です。「グループホーム 源氏庵」は韮山駅に近く、未だ田畑が見渡せる場所に所在する全国規模の大型スーパーの隣りにあります。運営母体の前身は古くから地域で世話になっていた運送会社で、住民の方々も当該ホームに親しみを込めて自分達の宝のように付き合っているようです。行政・町内会をはじめ地域の社会資源との関係も良く、利用者も自分の居場所と認識して落ち着いて暮らしています。家族、管理者、職員との意思の疎通も良く、共通の目線で利用者に接しています。これからも、益々、地域に頼られるグループホームであると考えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はホーム内又はパンフレットに掲げ、日ごろミーティング等で繰り返し確認し、サービス提供に努めている。	リビング兼用の広いホールには、大きな字で「自然に自分らしく共に生きよう源氏庵」と理念が掲げられ、各職員の目配りあるアプローチも良く、利用者各位が自由な雰囲気のもとに思い思いに生活されている姿を見ることが出来ます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(文化祭、敬老会)、小学校行事(運動会、お祭り)への参加は恒例となり、文化祭には一年間かけ作品制作をし、利用者の楽しみごととなっている。	ホームの行事であっても、地域の行事でも地域で共有している施設であるが如くに住民との連携がよく、ボランティアの出入りも頻繁ですし、最近では、地域の文化祭が開かれた際、蕪山駅前の時代劇場での舞台は、利用者の作品で埋め尽くされたと聞きます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の在宅介護に関わる方々の相談に応じたり、小学・中学・高校生の福祉体験学習を受け、多くの方に認知症を理解してもらえよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練や日常生活を体験していただき、細部にわたり意見交換を行い、民生委員を中心に地域の高齢者マップ作成の核となるよう取り組んでいる。	運営推進会議は、定期的開催されています。ホーム内の日常生活から採り上げる話題が多いようです。最近では出席者も特定せず、議題も多岐になり、地域で生活する認知症の要支援者をサポートするような案件も出ています。	内容までは法令で決められていませんが、開催ごとの出席者、議題や発言の記録等を整理して置く必要が有ります。特に出席者の中に市の担当又は地域包括からの出席者が居るかどうかは大切な要件となる場合があります。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議又は地域ケア会議を軸に相互の協力関係の構築に努めている。また生活保護、緊急支援要請に対して最大限応じるよう努めている。	地域に根ざしている施設であるがゆえ、行政との連携はとても良い関係を築いている事が理解できます。一方、生活保護を受けている利用者で、代理人もいない利用者が、待機者を含め増加しているようで、支援の難しさをも感じさせています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が施錠及び身体拘束を行う弊害を十分理解し、支援又は介助に努めている。	身体拘束を行わない介護については、職員一同がその意を理解して業務に従事している事が理解できました。それ故、他人に危害を加える可能性がある方の受け入れは難しいようですが、困難事例を解決しながらでも、事情の異なる多くの利用者に生活していただけるよう努めていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での虐待(行動、言葉等)が理解できるよう、月に一度の事業所内のケア連絡会等にて学ぶ機会を設け、職員だけでなく理解可能な利用者にも周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の現状に応じ必要な制度等を照会し、日常生活が滞りなく暮らせる支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	体験利用期間を設け、利用者又は家族の不安や疑問に積極的にコミュニケーションを図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情窓口を設け、日頃から利用者又は家族と意見交換のしやすい関係作りに努めている。また、意見は迅速にサービスに活かしている。	利用者アンケートからも「話を良く聞いてくれる」との声が、多く示されています。ホームへの家族の出入りも多く各職員が意見吸収に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを持つ中で、意見や提案に傾聴し、情報は真摯に受け反映している。	運営に関する基準にぶれない様に努めているものの、各職員が利用者や家族から聞く意見や提案に加え、職員個人の意見・提案は運営の基本と捉えていることが、管理者やスタッフからのヒアリングの際の言動の一致からも理解できます。	別の設問にも該当いたしますが、利用者からの意見吸収やスタッフからの意見・提案を、日常記録として保存、活用できるよう手軽に記録出来るような様式があればと考えます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とは日頃よりコミュニケーションを図り、個々の状況を把握できるように努め、安心して就業できる環境整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じ社外研修を受講したり、月に一度の社内研修(ケア会議)の機会を業務と調整しながら確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度の地域ケア会議に参加し、同業者はもとより地域の介護に携わる方々と運営状況又は情報交換をし、サービスに反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前(2週間～4週間)の体験期間を設け、本人の状況確認をしながら、細かな要望を知り相互関係を築くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み～体験期間を通じ、本人の状況を確認しながら家族の状況や要望を知り相互関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の体験期間中に本人や家族に必要な支援を見極め、あらゆるサービスを照会し選択の機会を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において本人と職員で共同作業(掃除・洗濯たみ・台所支度)や散歩をすることで、共同生活者の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族と職員の関係を均一に保ち、円滑に日常生活を送ることができるよう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の状態に応じ、これまでの生活で築いて来られた事(地域行事・老人会活動・冠婚葬祭・畑仕事等)を継続できる支援を重んじている。	地域での敬老会へ出席の支援、馴染の美容院へ散歩を兼ねて通う支援など、可能な限り利用者の気持ちを大切に支援を行っていました。加えて、利用者の意向を家族に伝えて外出の支援をしていただくなども通常の流の中で為されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で共同作業(掃除・洗濯たみ・台所支度)や散歩を通じて仲間作りをする支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の準備や本人又は家族が、必要なサービス利用に支障がないように相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	色々な場面にて本人の希望や意向を尊重し、可能な限り暮らしに取り入れている。	特に若年性の認知症の方など、本人の「ヤル気を引き出し、思いのまま行動していただけるよう」台所などで出来る事は積極的にしてもらっているようです。本人も、そのことに関して答えている場面を見せていただきました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人又は家族にこれまでの暮らし方や個人情報収集し、本人にあう生活を維持するために支援をする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身状態、日常の暮らし方を細部まで把握し、支援に役立てるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に全職員が課題や支援の情報収集に努め、本人又は家族との意見交換し、現況に合う介護計画作成に努めている。	現場の職員が目が主導的な意見吸収の源ととらえ、毎日の介護記録や職員のメモを大切に、その情報をもとにして本人や家族の意見等を取り入れ、ケアマネージャーが介護計画を完成させています。	現場からの意見吸収や毎日の介護記録や職員のメモはモニタリング効果として計画への反映に重要な事柄であるので、様式の整備等により聞き逃すことなく活用が出来るよう検討願います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の支援において、気づき・実践・結果を明確に連絡帳へ記録し、情報を共有することで介護計画作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟にサービス提供ができるよう多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の暮らしがよりよくなるために、地域資源を活用できる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と良好な関係を築くことで、本人の情報を適切に受ける支援をしている。	利用者の全てが、ホームの協力医を主治医としています。地域には順天堂病院が有り、主治医との連携も良く取れていて、認知症の方に対する理解も深く、適切な指導をして頂いているようです。通院には職員が支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と介護職員は情報を共有し、適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院をする際、日常生活の情報を交換したり、医療関係に適切な指示を得られるよう協働関係を築く支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人や家族に重度化・終末期の対応を周知させ、主治医と常に情報を共有し、いつでも本人や家族の望んだ支援ができるようチームケアに取り組んでいる。	終末期の対応については、家族の殆んどがホーム内を望んでいる事と、協力医(主治医)も職員が本件について良く学んでいる事を承知しているので、本人や家族が望むことなら協力して下さるとの体制が出来ていました。ホーム全体で、本件について取り組んでいました。開設以来、既に20名を見送っていますし、家族からの信頼を受けていま	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の初期対応として、応急処置や通報手順等を確認し、実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として早期に情報収集し、協力体制を依頼するために職員は昼夜の伝達手段や実践力を習得している。	区(町内会)からのホームに対する関心が深く、災害訓練の際に、主催者側から、ホームに対しての炊き出しの応援など応じてくださる事の確約を得ているようです。ホームとしても全職員が地域に甘えることなく対応出来るような体制づくりを構築しています。	諸訓練等を通じて、地域からの協力は得られるとは言え、事が起これば誰の指示で誰が動くかは明確化されていないようです。次ぎは、協定書等により提携先が具体的に機能されるような手順が必要と考えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格や生活歴等を考慮し、日常生活の中で一人ひとりに敬意をもって対応している。	利用者ひとりひとりが自分の居場所はホーム内である事を理解して、落ち着いた日々を送っているため、職員は本人の生活歴など理解した上で尊厳を損なわないよう、キメ細かな支援を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族の希望に傾聴し、色々な場面において選択または自己決定ができる支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしが本人のペースで過ごせるよう、その日その時の心身状態を把握し、ゆとりをもって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みで、身だしなみやおしゃれを楽しむことができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好や食事の摂り方を把握し、楽しみとなる食事になる支援をし、準備や片付けは利用者と職員が協働としている。	ホームの隣りは大型スーパーであり良質な鮮魚の提供も受けやすく、野菜はスーパーのほか、地域住民からの提供もあり、食材は恵まれています。ホーム長は調理師の資格で厨房を守り美味しい料理を引き受けています。そのような中で、利用者と職員と共に手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	自家米や地元野菜を中心に、利用者個々の状態に応じた、栄養・水分摂取量の確保を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥防止・清潔保持のため、毎食後に職員指導の下、利用者の口腔状態に応じたケアを勧めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、利用者個々の排泄を記録し、排泄パターンを活かしてのトイレ誘導を行い、夜間の排泄に対しては、睡眠の妨げにならない支援をしている。	プライバシーに配慮しつつ、自立の方には声掛けを怠りなく、また、支援の必要な方については、排泄記録に基づき定期的な誘導、支援を行なっていますが、その支援には、自立を願う心が込められたものがあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活・食事を軸に、体操や散歩を取り入れた		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴時間帯(13:30～17:00)に利用者の状態や希望に応じ、楽しみごとと清潔保持のために支援をしている。	通院の支援日である水曜日を除き、毎日を入浴可能日とし支援しています。ミスト浴も出来るし楽しんで入浴しても貰えるように心掛けていました。気分が入浴する利用者も、清潔保持のために、最低、週2日の入浴は欠かさないよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の心身状態に応じ、睡眠や休息ができるよう支援している。居間にある畳スペースにて、簡単に昼寝ができる工夫もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示通り、正しく服薬が完了し症状の経過観察に留意する支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	暮らしの中で、一人ひとりが自分の役割を持ち、共同生活を通して、仲間との関わりを楽しむ支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に体力作りや気分転換を兼ね、散歩を取り入れ、本人や家族の希望があれば買い物・地域行事への参加支援をしている。	散歩は「蛭ヶ小島」まで行く人への支援や郵便局へ切手を求めに行く人の支援、買物は隣りのスーパーへと臨機応変に支援しています。地域行事は蕪山駅前の時代劇場で行なわれる区民祭や商工祭に参加、ここ3～4年は小学校から音楽発表会や運動会へ招待されるようになったとの事です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持は、本人や家族の希望に応じ誤飲等の危険がないことを確認した後、支援をすることになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話や手紙を自由に交換できるよう見守り、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは毎朝利用者と職員で掃除を欠かさず行い、清潔で心地よく暮らせる工夫をしている。利用者の心身状態を配慮し、音・光等を自然に近いものにしていく。	2ユニットの利用者が共用できるリビングを兼ねたホールは広く、採光も良く、利用者が自由に行き来しています。壁面には思い出写真や記事が掲示され、古い時代の懐かしい品々も置かれています。朝、全員で掃除をすることですが、昼食時、利用者各位の準備や片付けの機敏な動きを拝見すると、朝の動きが想像できます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を広く取り、畳コーナーや散歩廊下を設け、時には賑やかに時には人の気配を間近に感じながら安心して過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや室温に配慮し、利用者の持ち込んだ品(家具・写真)をできるだけ使うことで、居室にて心地良く過ごせる工夫をしている。	居室には、思いの込められた品々が持ち込まれ落ち着いた雰囲気を作って居られますが、このホームの利用者各位は、日中、部屋に籠もる方が少なく、皆とホールで過ごす方が殆んど見受けました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内にて利用者が、自由で自立した暮らしが続けられるよう、看板や目印を活用している。		